

| | | | | |
|----------|--|------|-------------------------|---------|
| 免許状教科 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | | | |
| 科目名 | 教育の方法と技術 (情報通信技術の 活用含む) | 科目分類 | 教職科目 | |
| | | | 経済学科 | ■必修 □選択 |
| | | | 学科 | □必修 □選択 |
| 英文表記 | Educational Method and Technology | 開講年次 | □1年 ■2年 □3年 □4年 | |
| | | 開講期間 | □前期 □後期 □通年 ■集中 | |
| ふりがな | うらの ひろし | 修得単位 | 2 単位 | |
| 担当者名 | 浦野 弘 | 実施方法 | ■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用 | |
| 授業のテーマ | 授業におけるコミュニケーションやICTの活用等の理論と実践に関する基礎的能力の修得を目指す。 | | | |
| 到達目標 | 1) 授業のデザインという視点から、授業における教師の機能を、実施・評価をふまえて解説できる。 2) 個別最適な学びと協働的な学びの実現等を目指した情報通信技術（以下、ICTという）の活用の意義と有効性を説明できる。 3) 教材開発の視点を、2つ以上の例（最低一つはICTの活用を含むこと）を挙げて、説明できる。 | | | |
| 授業概要 | 授業を設計-実施-評価するために必要な知識や技術を習得することを目的とし、わかりやすい授業を設計する方法論、とりわけ中学校及び高等学校段階における授業内のコミュニケーションを支援する環境や方法、学力向上に向けた取り組みや実践記録を検討することを通して、教える（子どもが学ぶ）ための方法や技術について考える。また、社会の進展に伴う個別最適な学びと協働的な学びを実現するICTの活用の意義とあり方を検討する。その際、特別な支援を要するケース等に特に有効である事例についても考察する。さらに、学習指導案の作成及び模擬授業を行い、教師として授業を行う基礎的な知識や技術を習得する。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション：学ぶとは 先史時代から現代までを情報という視点から学びをとらえる | | | |
| 第2回 | 教育方法の基礎的理論及び実践（教育方法の歴史、学習指導の原理と形態）：遠隔授業の形態で実施、遠隔教育の意義やシステムについても学ぶ | | | |
| 第3回 | 教室での学び：学習と指導の形態、一斉授業～個別学習、協同の学び、そしてICTの活用 | | | |
| 第4回 | 授業とコミュニケーション、教師の役割：思考するクラス、思考のツールとしてのICT活用の事例 | | | |
| 第5回 | 授業をつくる（授業のデザイン）：授業の設計・実施・評価、そして板書計画 | | | |
| 第6回 | よい授業とは：授業の基礎的要件と、授業の評価 | | | |
| 第7回 | 教育とメディア：メディア（ICT）の意義、教材開発の方法と技術、情報モラル | | | |
| 第8回 | 学びの仕掛け①：教材、教科書、オンライン用教材の特徴 | | | |
| 第9回 | 学びの仕掛け②：学習のねらいと評価、個別最適な学びを支援する学習履歴の活用 | | | |
| 第10回 | 学びの仕掛け③：情報機器を活用した授業事例の比較-これまでの自分の体験と対比して、そのよさの発見（個別と協働、共有化を目指して）- | | | |
| 第11回 | デジタル教材を体験：電子黒板・デジタル教科書・デジタルコンテンツ 子どもへの指導を考える-特別な支援を要する子どもへの対応 | | | |
| 第12回 | 教師の情報化：校務分掌とそのデジタル化・ICT環境の整備、情報手段やその技術の変容、ICT支援員をはじめとした外部人材との連携 | | | |
| 第13回 | 動機付けと学習意欲の継続のために：さらに、新奇性や特別に支援を要する子どもへの対応 | | | |
| 第14回 | 再び、授業をつくる：模擬授業（ICTの活用を含む）の実施 | | | |
| 第15回 | 授業の改善向上のために：授業実践力を培うには、教科を超えた教師の学び、ICTの活用 | | | |
| 第16回 | 試験 | | | |
| 授業時間外の学習 | 1. 授業前には必ず教科書の該当箇所に通し、分からない単語や用語について辞書等で調べ、ノートにまとめておいてください。それと共に、内容の大筋を把握するように努めてください（1.5時間程度×15回分）。集中講義前半分は、テキストの第1、3、4、11の各章がこの対象です。 2. 集中講義後半分については、前半の最後の講義において指示をします。特に、宿題が課せられますので、必ずそれを行うことが求められます。 | | | |
| 履修条件 | ・教科書を必ず購入し、講義時には持参すること。 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 受講のルール | (未購入のときは上記予習ができていないと見なされ、受講することはできません)。 ・配付あるいはポータルサイトにある資料は、講義時に忘れずに持参するようにしてください。 |
| テキスト | 生田孝至他編(2016)『未来をひらく教師のわざ』、一莖書房 |
| 参考文献・資料 | 講義の際に紹介あるいは、配付します。 |
| 成績評価の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・宿題等のレポート(30%)と、最終に筆記試験(60%)を課します。また、毎時間求められる授業内容に関するコメントや、講義中の演習・作業への参加度(10%)も加味し、総合的に判断します。 ・宿題やレポート課題は講義内で指示をします。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 |
| オフィスアワー | 授業終了後 |
| 成績評価の基準 | 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) |
| 学生へのメッセージ | <p>まずは、前半の一期目には上記の「授業時間外の学習」の「1」に示す予習を必ず行ってください。ゼロの場合には、<u>受講が出来ない可能性もあります</u>。後半に向けての宿題と指示(レポートを含む)は、前半の最後(第8回目)に示しますので、それを必ず行うようにしてください。</p> <p>上記の予習を元に、議論をする機会を設ける予定ですので、その際の積極的な参加を期待しています。</p> |